

橋の魅力と視点条件の相違による意識変化の研究

日本大学理工学部社会交通工学科 学生会員 ○今井 司
正会員 伊東 孝

1. はじめに

観光立国の実現が重要課題となっている現在、橋はその周辺地域のシンボルやランドマークとしての魅力が再認識され、観光資源としての利用価値についても重要視されるようになった。

本研究では、一昨年度の研究※で提唱された「観光コースモデル」の検証を兼ね、橋を視点とした観光ツアー「皇居の橋ウォークと釣船での橋めぐり」参加者に対して行ったアンケート調査結果から、橋の魅力を考察する。

2. 「皇居の橋ウォークと釣船での橋めぐり」概要

「C-bridge」（橋を視点とした千代田の観光まちづくりを考えるグループ、筆者もメンバー）主催で、平成21年11月21日と同年12月6日の2回実施。コースは、皇居周辺の橋や史跡を巡るウォーキングルートと、1時間半ほどかけて日本橋川～隅田川～神田川を船でめぐるルートであり（図-1）、ツアー中は伊東孝教授より、橋の歴史やデザイン、構造などの解説がされる。

3. アンケート調査の方法と概要

（1）橋の魅力度評価

参加者を対象として、出発前、ウォーク終了後、船での橋めぐり終了後に同じ項目で調査を行い、橋の魅力に対する意識変化について調査した。調査項目は橋の魅力、機能や性格として考えられる13項目をあげた（図-2）。回答は関心が「非常にある」～「全くない」の7段階で評価、「非常にある」を7点、以下1点まで点数化、2回を合計した値で分析を行った。有効サンプル数は67人で、男性39人、女性28人となった。

（2）気に入った橋の調査

見てまわる橋の名をあげ、気に入った橋を皇居周辺から2つ、日本橋川の橋から3つ、神田川の橋から3つ選んでもらい、ランキング結果から分析を行った。

4. 調査結果と考察

4-1 橋の魅力に対する意識変化

（1）全体的な傾向

キーワード 橋の魅力、意識変化、影響、視点条件、橋の好み



図-1 橋めぐりルート図

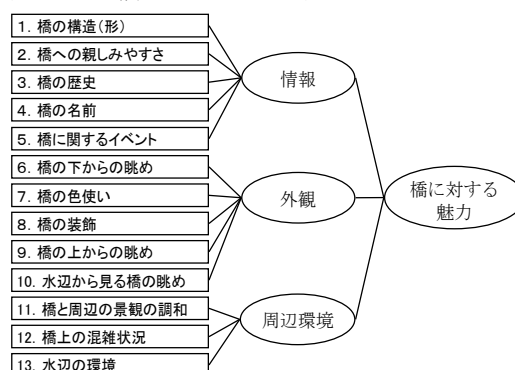


図-2 アンケート項目概念図

①参加者と非参加者とは、平均得点が大きく分かれ参加者の平均得点は全体的に高く、非参加者は低い。平均得点の最大値と最小値の差をみると、参加者では、出発前・ウォーク後・船での巡り後が共に1.3に対し、非参加者では2.2となる。参加者と非参加者とは、そもそも問題関心が違うことから、このような平均得点の差と幅が出たと考えられる。

②参加者の平均得点は、ツアーコース毎の平均得点の折線の形は変わらず、平均得点は「ツアー前→ウォーキング後→舟めぐり後」の順に高くなる。

③魅力の分類項目「情報」「外観」「周辺環境」別に見ると、参加者と非参加者とは特徴的なパターンとなっている。参加者は、それぞれ「緩やかな曲線を描く右下がり型」「W型」「鋭角的V型」、非参加者は「線的右下がり型」「右上がり型」「鈍角的V型」となる。

（2）個別的な傾向

参加者の意識変化を考察する。「水辺からの橋の眺め」「橋下からの眺め」の数値の上昇に反して、「橋上からの眺め」の数値が下降している。これは日常の眺

めへの関心が薄れたのではなく、非日常の眺めの衝撃がとても大きかったと考えられる。「橋の装飾」の数値はウォーク後に上昇した。船で巡った後では変化はほとんど見られないことから、「橋の装飾」は『外観』ではなく『情報』に分類できる可能性がある。

次に非参加者を考察する。「橋の上からの眺め」「水辺から見る橋の眺め」は高い数値となっており、今回のようなツアーに参加してもらうことで、橋への関心を高める可能性は大いにあるといえる。

4-2 気に入った橋アンケートの結果と考察

(1) 気に入った橋

気に入った橋の上位5つを地域別に表-1に示す。皇居周辺だと、皇居正門鉄橋が1位、2位が皇居正門石橋となるが、2位と3位の平川門橋と票数で1つしか変わらない。神田川は、順位が聖橋・万世橋・お茶の水橋、日本橋川は日本橋・常盤橋・豊海橋となる。しかし常盤橋は、文字通り震災復興橋梁の常盤橋なのか、明治10年竣工の石造の常盤橋なのか、疑問が残る。

(2) 男女別にみる気に入った橋

表-1を男女別に着目すると、若干違いがみられる。男女の総数がそれぞれちがうので、パーセント表示で検討してみると、より顕著な結果が得られた。図-4では、神田川の橋別の結果をグラフに示した。男性は聖橋・柳橋、女性は無世橋・お茶の水橋・小石川橋・後楽橋を好む。ここで興味深いのは、女性の好みの橋の中に、お茶の水橋と小石川橋という二つの桁橋が含まれていることである。中でも小石川橋は、女性だけが支持している。皇居周辺の橋でも、女性が木造桁橋の平川門橋に票を入れていることを考えると、女性は

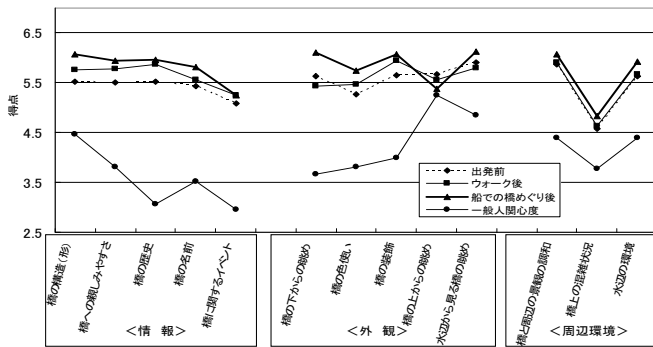


図-3 調査項目の平均点比較

表-1 気に入った橋アンケート結果

No.	皇居周辺	票数(男,女)	神田川	票数(男,女)	日本橋川	票数(男,女)
1	皇居正門鉄橋	35(21, 14)	聖橋	47(29, 18)	日本橋	53(34, 19)
2	皇居正門石橋	24(16, 8)	万世橋	29(14, 15)	常盤橋	26(16, 10)
3	平川門橋	23(13, 10)	お茶の水橋	23(13, 10)	豊海橋	17(11, 6)
4	和田倉門橋	18(9, 9)	柳橋	20(15, 5)	一ツ橋	14(8, 6)
5	清水門橋	12(4, 8)	昌平橋	16(10, 6)	江戸橋	11(6, 5)

軽やかでシンプルな橋を好むのに対し、男性は存在感があつてシンボリックな橋を好む傾向があるようだ。また、聖橋とお茶の水橋の対比には、隅田川に架かる男性的な永代橋と女性的な清洲橋と同様な表現が使えるかも知れない。

5. 手段の違いによる意識変化の比較

水道橋〜秋葉原(神田川)をウォークの場合(一昨年度)と船で巡った場合(今年度)の、参加者の意識変化を比較する。比較項目は「水辺からの橋の眺め」「橋下からの眺め」を除いた共通11項目である。

『周辺環境』の3項目すべてにおいて、船での数値が高くなっていることから、橋とその周辺環境を同時に楽しむならば船で巡る方がよいといえる。得点差が最も大きいのが「橋上からの眺め」である。それぞれ自分達の視点条件がよいとの判断結果と思われるが、船めぐり参加者が船めぐりの魅力を理解した故、ウォークの評価値が低くなったと考えられる。

6. まとめ

- ①橋に関するイベント行うことで、橋の魅力を再認識、新発見してもらうことができる。
 - ②男女によって橋の好みに違いがある。
 - ③手段によって、ツアー参加者に与える影響が違う。
- <謝辞>本研究は、「勝鬃橋をあげる会」をはじめ、多くの方々にご協力頂きました。ここに感謝の意を表します。
- <参考文献>※大沼史成 竹村恭平：日本大学理工学部社会交通工学科卒業論文, pp. 1-43, 2008年

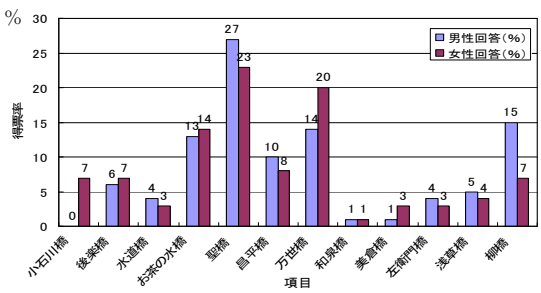


図-4 神田川に架かる橋の人気アンケート結果

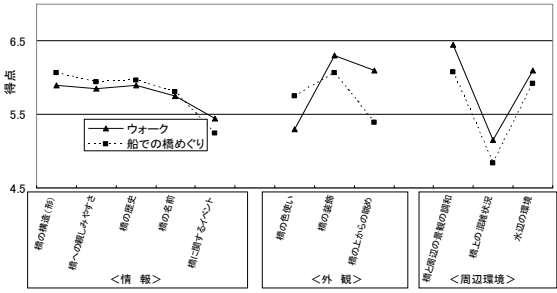


図-5 船めぐりと橋ウォークとの平均点比較